

## 進捗状況の概要（1ページ以内）

**1. 学内の実施体制**

- (1) 「学修成果」の把握・可視化・定型フォームによるフィードバック等のシステム化が進み、「学修成果の可視化」に基づくPDCAサイクルをルーティン化する仕組みがほぼ整う。
- (2) 「学修成果の可視化」に基づくPDCAサイクルを回すためのIRについては、平成29年度にIR推進部会の下に、各学科のIR担当を置くことが決まり、平成30年度から稼働する。
- (3) AP事業に関連する対外的活動は、従前どおりAPワーキンググループが対応。

**2. 中心となる取組**

- (1) Webシラバス・システム（以下、WSS）での「(毎回)授業アンケート」の活用。
- (2) WSSでの、「新入生アンケート」、「学修行動・生活調査」、「(期末)授業アンケート」の実施。
- (3) 「授業改善レポート」の作成とFD/SDでのフィードバック、『授業改善事例集』の作成。
- (4) 平成27年度に続き、大規模な「第三者アンケート」（「卒業生・就職先アンケート」）の実施。
- (5) 「クリッカー」機能を追加することにより、Webシラバス・システムの整備がほぼ完了。
- (6) 「第6回・7回富山短期大学外部評価委員会」を開催（注：年2回開催）。

**3. 取組の成果**

- (1) WSSでの「(毎回)授業アンケート」（リフレクション・シート）の活用が進み、特にアンケート結果に関する学生へのフィードバックが、授業改善・学修改善の効果を高めている。
- (2) 平成27年度から開始したWSSでの各種学生アンケート（2-2）によりデータの蓄積が進み、各種IRの取組が可能となった。平成29年度は、「授業改善効果」の検証、「平成27年度入学生の追跡調査」をまとめ、外部評価委員会へ報告すると共に、『中間報告書』に掲載した。また、WSS内のSIF（学生情報ファイル・システム）を通じて、教員の「学修成果別成績評価」、学生による「学修成果別到達度自己評価」ならびに各種学生アンケート結果等を学生にフィードバックするシステムが構築され、学生の「振り返りと気づき」を促す仕組みが整った。
- (3) 「授業改善レポート」の作成やFD/SDでの事例共有により、「授業改善の効果」が見られる。
- (4) 平成27・29年度の「第三者アンケート」から、就職先が本学卒業生に求めている資質・能力、ならびに本学に期待する授業内容・方法等が明らかとなった。
- (5) 「第7回富山短期大学 外部評価委員会」に『平成29年度 AP事業中間報告書～「学修成果の可視化」で目指すもの』を提出し、改善意見を頂くも及第点の中間評価を得る。
- (6) 「大学教育再生加速プログラム委員会」の中間評価で「A」評価を得る。

**4. 補助期間終了後の継続発展に向けた取組**

- (1) 【体制的な継続性】「学修成果」の把握・可視化・定型フォームによるフィードバック等のシステム化によって、極力省力化された体制を構築。加えて、(一社)学修評価・教育開発協議会に加盟することにより、学外との連携体制を構築・強化して事業の継続性・発展性を堅持。
- (2) 【資金的な継続性】追加的な人件費の必要がなく、極力省力化された体制を構築。

**5. 学内外への波及効果**

- (1) シンポジウムへの参加と発表
  - ①平成30年2月16日、「APテーマⅡ・V合同シンポジウム」のポスター・セッションに参加。
  - ②平成30年2月20日、「AP全テーマ合同シンポジウム」において本学の取組を発表。
- (2) 中間報告書の作成
  - ①APテーマⅡ選定校8校、『APテーマⅡ学修成果の可視化 実績報告書』を作成。
  - ②『平成29年度 AP事業中間報告書～「学修成果の可視化」で目指すもの』を作成。外部評価委員会へ提出。
- (3) FD/SD及び各種アンケートの実施の際に、全教職員に対してAP事業の趣旨を周知徹底。